

～『公共交通のトランジット機能の高度化』～

令和4年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：盛岡中心市街地再開発と戦略的公共交通網の構築による持続可能な地方都市モデルの形成と検証【第2弾】 —盛岡バスセンター・monaka再開発と、LRT・公共交通のベストミックス—

研究代表者：総合政策学部 准教授 宇佐美誠史

課題提案者：もりおか交通まちづくりLRTフォーラム

研究メンバー：戸舘弘幸、平野佳則（もりおか交通まちづくりLRTフォーラム代表）ほか

技術キーワード：公共交通、LRT、持続可能、地方都市、中心市街地

▼研究の概要（背景・目標）

盛岡市では現在、中心市街地再開発案件が目白押しである。この状況を踏まえ、今般、住みやすさ・暮らしやすさ・楽しさ、そして快適性・機能性というまち全体のあり方と交通政策を一体のものとして考える「交通まちづくり」の考え方を基本として、持続可能な都市のありかたを探求すべく、研究に取り組んだところである。

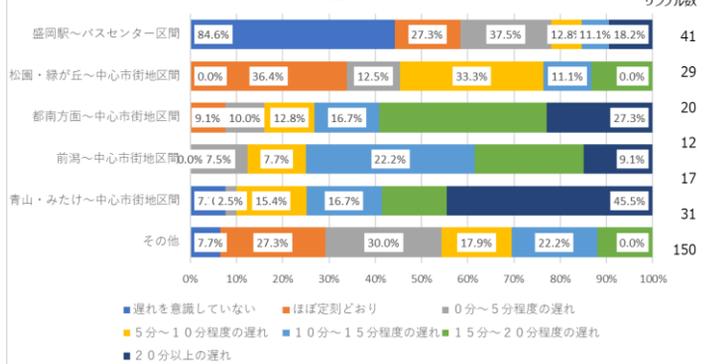
▼研究の内容（方法・経過）

本研究における基礎調査および啓発活動の一環として、以下の研究活動を行った。

- ◆バス交通に関する実態調査
150件のサンプルにより、バス交通の実態および今後の課題について分析
- ◆宇都宮市LRT視察(R5.1.7～8)
- ◆盛岡のまちづくりと都市交通・LRTを考える公開討論会（R5.2.11）



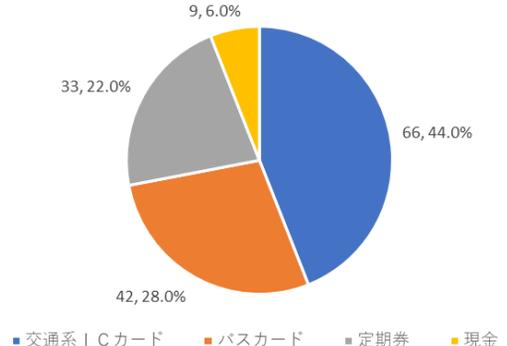
方面別バス遅延状況 7～9時



▼研究の成果（結論・考察）

1. バスの定時性について、朝7時～9時の時間帯において、10分以上の遅れるとした状況が目立つ。
2. 乗車快適度について、バス事業者によりバラツキもみられるが、運転が荒い、シートにガタがあるなど、快適さにも課題がみられた。
3. 交通系ICカードの普及については遅れをとっている。
4. 盛岡が持続可能な都市機能を維持発展されるためには、個々の交通モードの快適性の向上はもとより、交通モード相互の連携およびスムーズなトランジット機能を提供することにより、真に利用価値のある公共交通網をいかに展開させていくか、という点を追求していく必要がある。

バス料金の支払い手段



▼おわりに（まとめ・今後の展開）

- ◆盛岡市内の路線バスの利用実態を150件のサンプルにより分析し、朝の遅延が目立つことがわかった。
- ◆交通まちづくりを進めている宇都宮ライトレール沿線を視察、公開討論会で宇都宮市長に講演いただいた。令和5年度以降は、以下のような活動を展開する
- ◆先進地視察・・・路面電車サミット開催予定地である宇都宮市を再度視察するなど、先進地を視察する
- ◆公開フォーラム・・・まちなかセッションおよび公開討論会を予定。広く市民への意識付けを行う。
- ◆月例のナイトセッション・・・LRT、公共交通全般に関する知識の補充や市民への啓発を図る。
- ◆地域への普及啓発・・・本研究での成果や経験・体制を基盤にして今後も持続的に都市運営・改善に関わっていく体制とムーブメントを形成する。